

中図 健(著)

上肢運動器疾患のリハビリテーション

関節機能解剖学に基づく治療理論とアプローチ [Web 動画付]

評者 深谷直美

藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院リハビリテーション部門・作業療法士

“わかりやすい・おもしろい・実践できる”。単純な感想を述べるなら、この3つに集約されます。

本書では、上肢運動器疾患に対するリハビリテーション治療の組み立てかたを理解し、62本の動画でセラピストの治療技術を学べます。学生時代から運動器疾患のリハビリテーションに興味を示し日々患者さんに向き合ってきた著者である中図健先生の知識と経験をもとに、セラピストが知りたいことを丁寧に説明しています。日々の臨床に寄り添ってくれる技術書であると思います。何よりも動画で繰り返し確認できることがありがたく、臨床力が向上することは確実でしょう。

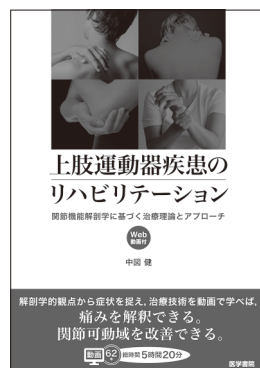
前半は「各疾患の治療方針の立てかた」、後半は「関節・軟部組織に対する治療法」で構成されています。各疾患は、頸椎、肩関節、肘関節、前腕、手関節、指関節に分けてまとめてあり、頸椎症性脊髄症、橈骨遠位端骨折などのよく経験する疾患が挙げられています。各疾患に対し「治療プログラム」と題したリハビリテーションの治療方針の立てかたと治療順序が解説されています。後半の治療法の章では、頭頸部、体幹に始まり上肢各部位の解剖学的な特徴と具体的な治療方法について疾患に合わせたかたちで学べます。随所に挿入されている関節の構造や病態、整形外科的治療法などの図が理解を助けてくれます。

疾患の説明は簡潔であるものの、拘縮や筋機能不全などの運動障害が生じる理由については、介入すべき問題が理解しやすいように丁寧に書かれています。疾患と関節機能解剖とアプローチが結び付いていくので“わかりやすく、おもしろい”と思います。とはいえ、解剖や運動器疾患に詳しくない場合にはやや難解な部分もあるため、他の解剖学書や著者が編集された前著『上肢運動器疾患の診かた・考えかた—関節機能解剖学的リハビリテーション・アプ

ローチ』(医学書院、2011)なども読むとより理解しやすくなるでしょう。

動画のなかには、著者が解説しながら骨や筋を身体上に描画していくものもあったので、見ながら実施したところ、自身でもかなり確実に触診できました。治療場面の動画でも、セラピストが手を添える部分や対象者の身体の動かしかたがわかりやすく、“実践できる”と感じながら試してみると本当に実践できました。62本の動画1つずつは数分～10分程度に編集されていて気軽に視聴できます。

実践のためにもっと勉強したい！と求めているセラピストにぜひ見てもらいたい内容です。機能解剖学や生理学を復習しながら読み進めれば、患者さんの状態を今まで以上に理解できるようになり、治療へとつなげられる一冊だと思います。



B5版・160頁
定価：本体4,000円＋税
医学書院刊、2018年